

革命広場 雨と涙の 100 万人メーデー

★表紙写真参照

小蓬原千津留 (こふつはら ちづる/鹿児島県)

大河のような労働者の流れ

初めてのキューバ旅行も、中盤に差しかかり、5月1日、今日はメーデーへの参加です。日本でのメーデーを思い出しながら、先日見学したあの革命広場に、どうやったら100万人が集うことができるの? と興味津々でした。

早朝4時半、まだ薄暗いうちにバスで出発。車窓からはたくさんのバスや車、歩道を行く人、みんな革命広場へ向かっています。

会場入り口で通行証を示した私たちは、椅子のある高い席へ案内されました。大型スクリーンや楽団、応援団が向こう正面に据えられ、会場を盛り上げています。隣席の言葉の通じない人々と、折鶴で交流しながら開会の7時を待ちました。

ラウル・カストロさん一行が、私たちの背後の一段高い席にやってきました。我が家のテレビで観た、オバマさんと握手したあのラウル議長です。開会のあいさつや演説が始まりましたが、日本語訳はないのでBGM感覚でスペイン語を楽しむしかありません。

それにしても、人でごった返すはずの広場は空きも多く、1万人しかいないんじゃないの、100万人はどうしたの? と気がかりでした。

日本と同じで、集まりが悪いのかなと心配です。雨も降り出しました。傘の用意のない私は、万に備えた黒い大きなゴミ袋を頭と両腕を通す穴をあけかぶりしました(写真上)。帽子があるので万全です。ラウルさんは大丈夫かなと見上げると傘もささず、ぬれたまま平然としていました。

しばらくして、一段と歓声が大きくなったと思いきや、左遠方から大きな人の群れが会場へ流れてきました。幅10車線分もある広場の中央を、団結を記した横断幕を先頭に大河のごとく流れていくのです。

どこから来てどこへ流れて行くのか、1時間ぐらいは流れたように思います。高い席から眺めているのがもったいなくて、下まで降りて手を振り、目を合わせました。子どもから高齢者まで、仕事の制服を着た人、警官、看護師、着飾って踊りながら歩く人、楽器を奏でる人……プラカードには「メーデー万歳」「カストロ万歳」「ゲバラ万歳」と記され、色とりどりの旗に混ざって、さとうきびを掲げて



いる人も多く、農業をしている人びとの参加に驚き、すべての労働者が祝っていることを実感しました。

手を振ると「ヘーイ、チャイナ?」「オー、ハポン!」と笑顔が返ってきます。世界70数か国からの参加があり、肌の色もさまざまです。日本人同士で色が白いか黒いか言い合っ一喜一憂しているのがこっけいに思えてきます。白は白なりに、黒は黒なりにとてもきれいなのです。

インターナショナル♪ に送られて

働く者が幸せに暮らすキューバ、弱い者も明るく陽気に生きる国、医療も福祉も教育も、すべての人びとに無料で提供されるシステムを作り上げたカストロやゲバラの熱い思い、そして、その思いを革命から50年を経た今日まで継承し発展させているキューバ国民の賢明さに心を打たれました。

ひとりひとりを見つめながら涙があふれてきたけれど、雨が降っているのでごまかせます。このメーデーには雨が似合うと思いました。

いつまで続くの、この人波、と思う頃やっとなり、雨もやみました。日本でこのようなメーデーが作れたら「集団的自衛権」や「憲法見直し」の言葉など聞かなくてすむでしょうと思いつながら、またひとつ自分の心に新しい細胞が芽生えたような心地良さを覚えました。

「インターナショナル」の曲に送られて会場を後にしました。

